

## 「東北大学とワシントン大学の共同研究立案ワークショップ」に参加しました (2019/3/13-15)

テーマ：国際連携、2011年東北地方太平洋沖地震、カスケード超巨大地震  
 場所：ワシントン大学（米国ワシントン州シアトル市）

東北大学とワシントン大学は、両大学間の連携のためにワシントン大学に設置された組織 Academic Open Space によるサポートを受けて、3月13日（水）・14日（木）の二日間にわたり「Project Definition Workshop on M9 Disaster Science（マグニチュード9災害科学の共同研究立案ワークショップ）」をシアトルにあるワシントン大学で開催しました。両大学の研究者のほか、チリの統合災害リスクマネジメント研究センター（Research Center for Integrated Disaster Risk Management ([CIGIDEN](#)））の研究者が参加しました。

このワークショップは、マグニチュード9という超巨大地震に伴う地震動・津波・地すべりによる災害に複数の側面から焦点をあて、新たな国際連携プロジェクトを始動させることを目的で開催されました。具体的には、1) 観測と早期警報、2) リモートセンシング、3) 計画とリスク評価、4) 津波モデル化、5) 地すべりと岩盤すべりのモデル化、6) 沈み込み帯地震学・津波波源・確率的津波ハザード評価、7) 構造工学、をトピックとして取り上げ、議論が行われました。当研究所からは、地域・都市再生研究部門の寺田賢二郎教授、森口周二准教授、山口裕矢助手、災害リスク研究部門の越村俊一教授、サッパシー・アナワット准教授、マス・エリック准教授、災害理学研究部門の福島洋准教授、情報管理・社会連携部門のマリ・エリザベス准教授が参加しました。

グループに分かれて行われたディスカッションでは、候補となる共同研究テーマについて個々の研究者から意見を出し合い、検討が行われました。各グループで共同研究プロジェクトを立案し、2日目の最後に行われたまとめのセッションにおいて、各グループからプロジェクトの目的や今後の具体的な進め方等が発表されました。2019年11月に仙台で開催される第2回[世界防災フォーラム](#)で東北大学とワシントン大学の連携に関するセッションを実施し、その場で共同研究の進捗結果の披露を目指すことになりました。

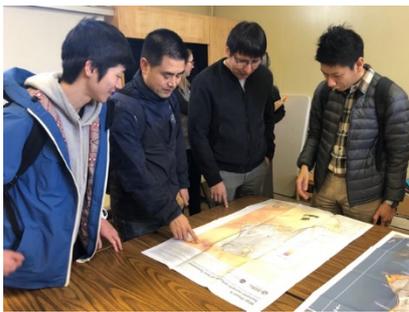
ワークショップの翌日の3/15（金）には、シアトルと湾を挟んで向かい合うオリンピア半島のポート・タウンSENDとディスカバリー・ベイ地域において、1700年の超巨大地震の「[みなし子元祿津波](#)」などの地震による津波堆積物観察の巡検が行われました。



文責・写真：福島 洋（災害理学研究部門）、マリ エリザベス（情報管理・社会連携部門）  
 （次頁へつづく）



ワークショップの様子



フィールド巡検の様子